

当園ではこの度、平成29年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価及び関係者評価を実施いたしました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自身や園全体を見つめ直すいい機会となりました。また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

I. 教育目標

一人ひとりの幼児を大切にし、心の豊かさ・明るさ・秩序責任、土と風と太陽に親しみ、より丈夫な身体を育成し21世紀の社会に貢献し得る人格の基礎づくりを指導しています。

- 協同と自主自立の精神を養う
- 豊かな情操と感覚を養う
- 創造性と思考力を養う
- 健康で明るく、心の豊かさを養う

II. 今年度の重点目標

- 教職員の育成
- 子ども達への指導とかかわり
- 教員同士の情報共有
- 防災訓練の質の向上
- 安全管理体制の強化
- 地域の未就園児親子を対象とした育児支援の充実

III. 評価項目と取組み状況

評価項目		取組み内容	取組み状況
1	教職員の育成	研修や外部の専門家から得た知識やスキルを、日々の保育に工夫して取り入れて園全体の保育レベル向上に努める。	B 外部研修に参加した教職員から内容報告を受けて、テキストを共有して教職員間で知識の拡充を図った。研修への参加以外に保育雑誌の記事をとりまとめて教職員で目を通しあい、保育の向上及び情報収集へと取り組んだ。公開保育に出向いて他園の様子を見て学びを得ることができている。音楽の研修では楽器の正しい使い方や手入れ方法を学び、実際に保育に取り入れることができた。研修内容を選別しながら色々な事例に触れてさらに知識を身につけていきたい。研修資料やテキストを見せ合うだけでなく、時間をとって話し合う中で今までの自分の保育を見直し振り返りを行い、気づきを得ていきたい。
2	子ども達への指導とかかわり	子どもの成長に合わせた保育内容を実施し、教職員全員で丁寧な声掛けや指導を継続して心掛けていく。	A 子どもたち一人ひとりをしっかり見られる環境の中で保育をさせてもらっており、声掛けや導き方に変化を加えながら成長を見守ってきた。職員全員が一人ひとりの子どもについて理解できるように保育後は反省会を行い、声掛けなどの工夫につなげている。日々決まった時間に職員全員での意見交換の場を設けることで、以前よりもそれぞれのクラスの情報を共有することに繋がっている。間違っていることにはしっかりと理解できるように指導を行い、褒めながらも楽しい園生活を送れるように努めた。子ども一人ひとりに応じて、時には優しく時には厳しい対応を交えて、担任と保育者がフォローしあうことができた。

評価項目		取組み内容	取組み状況
3	教員同士の情報共有	園全体で意見交換を行い、アドバイスや意見をもとに教職員間の連携をさらに強化していく。	B 教職員間で反省会の場を活かして、互いに意見やアドバイスを交わして連携が図られている。保育後に毎日反省会を行い、相談やアドバイスをしあって助け合いながら、少しでも多くのことの共有に取り組んでいる。しかし、些細な連絡漏れが見受けられる場面があったので、伝達漏れが無いように注意していきたい。また、教職員が日々の保育に追われてしまい、意見交換の時間が十分でない面がある。各クラス、教職員間の意見交換を密にして、教職員個々がお互いを尊重し、理解し協力して保育を進めていけるように人間関係を構築していく。子どもたちの状況把握や自分自身の反省等、全体での時間確保に継続して取り組み、日々の保育につなげていく。
4	防災訓練の質の向上	火災発生時の避難訓練に加えて地震発生時の訓練実施を計画するとともに、マニュアルについて教職員間で認識の統一を図っていく。	B 火災・地震発生時の訓練を実施し、終了後には気づいたことを話し合い、以後の訓練に活かすことができている。子どもたちは訓練時にサイレンの音に反応して、どう行動するのか分かり素早く行動できており、避難誘導も的確に行えている。何故避難しなければいけないのか、なぜタオルで口をふさいで、上靴のまま避難するのか等の理由について、子どもたちに粘り強く伝えていく。今後も子どもたちには絵本などを通して分かりやすく伝えていきたい。地震、あるいは火災とでは災害が起こった時の対応が異なるため、再度対応方法をしっかり把握しておきたい。地震の際のマニュアルを教職員で確認し、避難時にストープの元栓を抜くなど、細部まで見直し徹底を行う必要がある。
5	安全管理体制の強化	遊具の安全見回りを定期的に行い、その点検結果を記録して園の安全管理体制について取組みを強化する。	B 教職員間で定期的に遊具の安全見回りは行えていないが、園児が遊具で遊ぶときは事故やケガが発生しないように、教職員が1人ずつ付き添うように注意している。安全管理を強化することで大きなケガの発生を防ぐことができた。日々の外遊びの際にチェックし、気づいたことはその都度速やかに園長に伝えている。砂場の遊具や子どもたちが毎日使用する遊具を気付いた教職員が手入れして、場合によっては処分している。ジャングルジム等でペンキが剥がれて錆びが見受けられる箇所、修理が必要な箇所があり、子どもたちが遊ぶ前にチェックを引き続き励行していく。
6	地域の未就園児親子を対象とした育児支援の充実	未就園児を対象した園庭開放や工夫したイベントを継続実施して、園の活動内容を地域へ広める取組みを行う。	B 園庭やプールの開放日を設定し、親子で楽しく過ごせる環境の提供に努め、毎日参加くださる未就園児も見受けられた。園庭開放では在園児の触れ合いが生まれ、バザーでは地域の方も数多く参加いただくことができた。また、園バスにポスターを掲げて広く周知することができ、ポスターのデザインに変更を加えてたくさんの未就園児親子の来園につながった。今年度は夏場にすいか割り、そうめん流しを行っており、そうめん流しは卒園児に好評であり、未就園児の参加へとつなげていきたい。幼稚園説明会への参加等、地域との交流を深めて、当園をさらに知っていただく取組みを工夫し継続していく。

【評価の基準】

S	十分達成されている
A	達成されている
B	取組まれているが、成果が十分でない
C	取り組みが不十分である

IV. 今後取り組むべき課題

1	教職員の育成	研修から得た知識やアドバイスを伝えあい、実践して保育に取り入れ保育レベルの向上を目指す。
2	子ども達への指導とかわり	子どもたち一人ひとりの特性の把握に努め、教職員全員で指導に関わり柔軟な対応を心掛けていく。
3	教員同士の情報共有	十分な意見交換の場を確保するように園全体で努め、連絡伝達漏れ等を未然に防いでいく。
4	防災訓練の質の向上	災害発生時の事前準備や避難方法を園内で再確認し、子どもたちの防災意識向上をねらいとしていく。
5	安全管理体制の強化	遊具使用時は教職員が必ず付き添い、園内で点検の流れを定めて安全管理に努める。
6	地域の未就園児親子を対象とした育児支援の充実	未就園児の参加を促す企画を継続して実施し、園の活動内容を広く地域へ発信していく。

V. 学校関係者の評価

・各評価項目において、総じて丁寧に対応していただいています。子ども達のために日々努力していただいている事を知り、改めて感謝の気持ちでいっぱいです。発表会等行事開催時における保護者の負担軽減にも配慮の上、改善いただき嬉しく思います。今後も先生方と保護者で協力して、子どもたちのためにより良い園生活が繰り広げられることを期待しています。

・後援会という立場から、保護者とはまた違った観点で園活動に関わってきました。先輩教職員が相互に新入教職員の指導育成を行うなど、保育方針を共有しながらメリハリのある保育が実施されることを引き続き望みます。また、教職員間の連携を密にして少人数保育の良さをさらに活かしていただきたいです。

・自然災害が発生している状況にありますが、子どもたちが笑顔で楽しく生活を送れる園であって欲しいと思います。全園児がお友達と触れ合い、遊ぶことができる環境にとっても感謝しています。今後も温かい指導をどうぞよろしくお願いいたします。

<後援会>

以上